

科目名	工業簿記				
授業形態	講義	学年	1		
開講時期	2022年度 後期	単位数	2		
担当教員	大橋 良生				
内容および計画	工業簿記は、外部活動である購買活動や販売活動に加え、内部活動である製造活動を行う製造業に適用される簿記である。企業で製造された製品の原価がいくらであるかを算出する手続きを原価計算という。本講義では、製造業で行われる工業簿記について、主に、原価要素（材料費・労務費・経費）の消費額の計算から基本的な原価計算である個別原価計算までの範囲を学習する。なお、適宜、演習問題等を織り交ぜながら進行するため、計画を変更する場合がある。				
1	■ガイダンス ■工業簿記・原価計算の基礎(1) 工業経営と工業簿記/原価/制度				
2	■工業簿記・原価計算の基礎(2) 勘定体系と勘定連絡 ■材料費の計算(1) 定義/分類/購入/実際消費				
3	■材料費の計算(2) 予定消費/棚卸減耗費				
4	■労務費の計算(1) 定義/分類/支払/実際消費				
5	■労務費の計算(2) 予定消費				
6	■経費の計算 定義/分類/消費/仕訳と勘定記入				
7	■製造間接費の計算(1) 集計と配賦/配賦方法/配賦基準/実際配賦/予定配賦				
8	■製造間接費の計算(2) 配賦差異の分析				
9	■部門別計算(1) 意義/原価部門/手続/実際配賦				
10	■部門別計算(2) 予定配賦				
11	■個別原価計算(1) 意義/特定製造指図書/集計方法/種類/原価計算表				
12	■個別原価計算(2) 仕損費/作業屑				
13	■工業経営における財務諸表(1) 月次・年次決算/年次財務諸表				
14	■工業経営における財務諸表(2) 製造原価明細書・損益計算書における原価差異				
15	■総まとめ・総合問題				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	工業簿記・原価計算の基礎－理論と計算－〔第4版〕	上埜進編	税務経理協会	9784419064372	2017

参考書	上埜進編『工業簿記・原価計算演習－理論と計算－（第4版）』税務経理協会，2015年， (ISBN9784419062552)	
成績評価		
	評価方法	割合(%)
	課題・小テスト	40
	定期試験	60
学習到達目標	工業簿記に関する基本的知識の習得，および製造活動に関する情報の作成や活用ができるようになる。	
先修条件	特になし。ただし，会計学入門，簿記演習，商業簿記を履修済み・履修していることが望ましい。	
実務経験		
その他	「工業簿記」と「原価計算」とで，日商簿記検定2級（工業簿記）の学習範囲をカバーしているため，両科目をセット履修することを勧める。なお，授業では，電卓を携帯すること（携帯電話を除く）。	